

# さい害時に命を救う仕事

## 題材のねらい

人の命を救う仕事に従事する人々の活動や地域のつながりを理解させ、地域社会の一員としての自覚を育てる。

## 教科等との関連

社会 (4) -イ

関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

## 展開例

|     | 学習活動   | 指導上の留意点  |
|-----|--|--|
| 導入  | 災害が起こったときに命を救う仕事について発表する。  | ・ 阪神・淡路大震災、東日本大震災の救助活動の写真等を活用し、命を救う様々な仕事について想起させる。   |
| 展開  | 命を救う仕事にかかわる人の活動や思いについて話し合う。<br><br>「阪神・淡路大震災のときに多くの命を救った地いきの助け合い」(コラム)を読んで、話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害救助に関わる人(自衛隊、消防、警察、赤十字、海上保安庁)の活動内容についてまとめる。</li> <li>・ 自衛隊の救助状況や医療救護活動内容を知らせながら、救助活動に従事する人の思いについて考えさせる。</li> </ul> |
| まとめ | 日頃から、地域の人達とどのように接していけばよいか考える。  | ・ 災害時に命を守るために、公助だけでなく、自助や共助の大切さについて理解させる。  |

## 公の助けを得る

### 公の助けを得る

## さい害時に命を救う仕事

地震や水害など大きなさい害が発生したとき、何より大切なことは、人の命を救うことです。  
2011(平成23)年の東日本大震災でも、多くの方がけん命に活動しました。

### A 自えい隊

ひさい者の救助や、たおれた建物を取りのぞき道をつくる作業を行いました。また、給水車をけん引したりかせつぷろをつくりたりもしました。

ちゅうとん地のある秋田県を震災当日の夜に出て、早朝に岩手県に入りました。ひさい地の様子を見て体が固まってしまいました。わたしがこれまでに見たことがない光景が広がっていたからです。「一人でも多くの命を救いたい」という思いがわたしをふるいたせました。毎日、どろの中を進む重たい作業を続けましたが、思うように救助活動は進まず、と中で心が折れそうになりました。しかし、まだどろの中でわたしたちの助けを待っている方々を思うと「自分のつらさなんてたいしたことない。自分たちががんばらなくてどうするんだ。自分たちが今必要なんだ」と仲間たちと声をかけ合いながら、必死で救助活動を行いました。

第9師団第21普通科連隊(秋田県)

### 消ほろ

地震の後に発生した火さいの消火活動や津波でひさいを受けた家屋からの救助活動などを行いました。

(写真提供 陸自第11師団)

### けい寮

救急車、消ほろ車をゆう先して通すきん急交通路のかくほやはんざい手ぼろのパトロールを行いました。

(写真提供 兵庫県)

### B 赤十字など

けが人や病人が次々と運ばれる中、全国から医師が集まって、治りように当たりました。

(写真提供 神戸赤十字)

### 海上ほ安ちよう

多くのしょう貨物の中、長崎湾にもぐり、津波で流された人たちのそうさくを行いました。

(写真提供 海上保安庁)

### C 阪神・淡路大震災のときに多くの命を救った地いきの助け合い

「この家は、ばあさんがけん命にわきに建てた。」「子ども部屋は台所のうた。」

近く、多くの建物が全壊か大半壊れ、多くの方が命を失いました。しかし、この町では、地いきの人が近所の家のじょうぼうを持ち、がれきの下で消えそうになった命を次々に助け出しました。そして、地震発生から約11時間後、自えい隊が到着するまでに、生ぜんしていた人、なくなつた人、すべての救出を絶えたいとあきらめず、地いきの助け合いで、この町は生き残りました。阪神・淡路大震災ではかさいされた家屋から救出された35000人のうち、27000人は近所の住民に救出されたといわれています。さい害時の救命救助はスピードが大切です。最初の72時間(3日間)がかぎといわれています。しかし、大地震のときは、各地で同時に生きうめになったり出火したりするので、ひさい地の消ほろやけい寮だけでは救命救助の人数が足りません。全国の消ほろやけい寮のおうえんのとう着は早くても2日目、3日目となります。

このようないきょうきょうで、多くの命を救うのは住民の助け合いです。消ほろやけい寮が十分につかんでいない家族のじょうぼうも、近所の住民なら知っていることがあります。日ごろから地いきの人とつながりをもっていれば、いっそうの防災・減災につながるでしょう。

命を救うには最初の72時間が勝負

17000  
8000  
4000  
2000  
1000  
0  
1995.1.17 1995.1.18 1995.1.19 1995.1.20 1995.1.21 1995.1.22 1995.1.23 1995.1.24 1995.1.25 1995.1.26

■ 自えい隊 ■ 地いき

資料: 国土交通省 神戸市消防局の発表

### A 東北地方太平洋沖地震に対する自衛隊の救助状況(平成23年3月14日現在)

| 月日   | 3月11・12日 | 3月13日・14日(0530現在) | 計       |
|------|----------|-------------------|---------|
| 救助者数 | 3,200名   | 6,800名            | 10,000名 |

<http://www.mod.go.jp/j/press/news/2011/03/14a.html> (防衛省・自衛隊 HP)

### B

・ 東日本大震災日本赤十字社の活動内容: 被災地での医療救護活動、災害救援物資の配付をはじめ、義援金の募集・受付、ボランティア活動、こころのケア、仮設住宅への生活家電セットの寄贈など <http://www.jrc.or.jp/shinsai2011/>

・ 医療救助に携わったその他の団体: DMAT(各都道府県の災害派遣医療チーム)、医療チーム(日本医師会のJMAT等)、看護師、保健師、薬剤師等

### C

地域の人と顔の見える関係づくりのために日頃からできること: 地域の清掃活動への参加、お祭りなどの地域行事や伝統行事への参加、地域の防災訓練への参加など